



編集 御同朋の社会をめざす運動
山陰教区委員会
発行 山陰教区 教務所
〒660-0003 松江市大正町四四三ノ一
本願寺山陰教室
TEL 〇八五二-〇四七四七
FAX 〇八五二-〇八三一五
発行所 佐々木 了三 慎

新しい「領解文」(浄土真宗のみ教え)

についての消息

本年三月には、「親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要」という記念すべきご縁をお迎えいたします。このたびの慶讃法要は、親鸞聖人の立教開宗のご恩に深く感謝し、同じお念仏の道を歩む者同士が、あらためて同信の喜びを分かち合うためのご法要です。また、これを機縁として、特に若い人やこれまで仏教や浄土真宗に親しみのなかった人など、一人でも多くの方々に浄土真宗とのご縁を結んでいただきたいと思います。

浄土真宗では蓮如上人の時代から、自身のご法義の受けとめを表出するために『領解文』が用いられてきました。そこには「信心正因・称名報恩」などご法義の肝要が、当時の一般の人々にも理解できるよう簡潔に、また平易な言葉で記されており、領解出言の果たす役割は、今日でも決して小さくありません。

しかしながら、時代の推移とともに、『領解文』の理解における平易さという面が、徐々に希薄になってきたことも否めません。したがって、これから先、この『領解文』の精神を受け継ぎつつ、念仏者として領解すべきことを正しく、わかりやすい言葉で表現し、またこれを拝読、唱和することでご法義の肝要が正確に伝わるような、いわゆる現代版の「領解文」というべきものが必要になってきます。そこでこのたび、「浄土真宗のみ教え」に師徳への感謝の念を加え、ここに新しい「領解文」(浄土真宗のみ教え)として示します。

ご門主は、二〇二三年(令和五)年一月十六日、御正忌報恩講法要ご満座に続いて御影堂で「ご消息」を發布され、み教えの肝要が広く、また次の世代に伝わることを願われて、新しい「領解文」(浄土真宗のみ教え)を示されました。

南無阿弥陀仏
「われにまかせよ そのまま救う」の 弥陀のよび声
私の煩惱と仏のさとりは 本来一つゆえ
「そのまま救う」が 弥陀のよび声
ありがとう といた
この愚身をまかせよ このままで
救い取られる 自然の浄土
仏恩報謝の お念仏

これもひとえに
宗祖親鸞聖人と
法灯を伝承された 歴代宗主の
尊いお導きに よるものです

み教えを依りどころに生きる者 となり
少しづつ 執われの心を 離れます
生かされていることに 感謝して
むさぼり いかりに 流されず
穏やかな顔と 優しい言葉
喜びも 悲しみも 分かち合い
日々に 精一杯 つとめます

この新しい「領解文」(浄土真宗のみ教え)を僧俗を問わず多くの方々に、さまざまな機会でご拝読、唱和いただき、み教えの肝要が広く、また次の世代に確実に伝わることを切に願っております。

令和五年 一月十六日
二〇二三年

龍谷門主 釋 專 如

フードバンク活動報告

(三月十五日現在)

ご協力いただいた個人・団体の方
 二二七(延べ数)
 届けていただいた食料品や日用品
 の数 二七七〇
 お米 約七一〇キロ

お菓子 約九一〇食
 インスタント食品 約八七〇食
 缶詰 約一七〇個
 調味料 約二七〇個
 飲料水 約四三〇本

二〇二二(令和四)年度 寺族婦人研修会

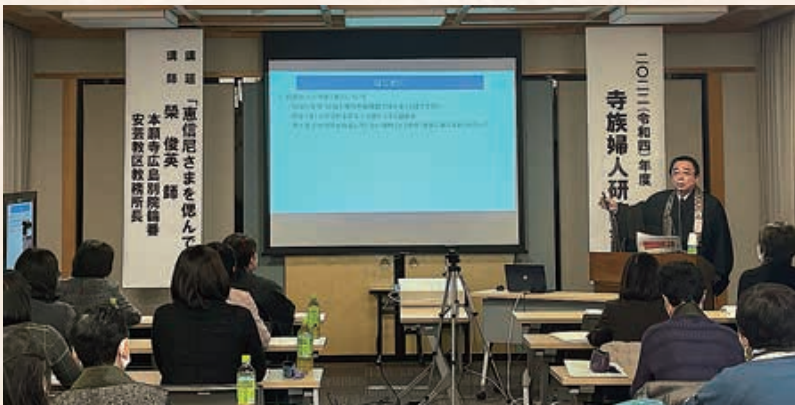
期 日 二〇二二(令和四)年
 十二月二日(金)
 会 場 山陰教堂
 参加者 五十二名(教堂二十四名
 オンライン二十八名)

の榮俊英師(飯南組 西雲寺)から、「恵信尼さまを偲んで」と題し、恵信尼さまのお手紙『恵信尼消息』を通して、ご生涯と浄土真宗についてお話いただきました。

このたびの研修会は、平成三十年に七五〇回忌を迎えられた恵信尼さまを偲び、ご生涯を通して学びを深めることを目的として開催いたしました。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で度々延期となっておりましたが、会員の皆さまの強い思いから開催が実現しました。また、オンライン配信を活用することで、遠方の方にもご参加いただくことができました。今後も、多くの方にご参加いただけるよう模索してまいります。

本堂において「恵信尼公七五〇回忌法要」を修行。皆さまと正信念仏偈をお勤めしました。その後、安芸教区教務所長・本願寺広島別院輪番



その他日用品(洗剤・タオル等)

これまで、三十九回に亘り山陰両県の社会福祉協議会や管轄する役所、活動されている団体へお渡ししました。今後も継続して実施いたしますので、ご協力をお願いいたします。

○届けていただきたい食品
 ・お米・レトルト食品・インスタント食品・缶詰・瓶詰・乾麺・のり・

わかめ・こんぶ・粉末食品(お茶漬の素・スープ・みそ汁・ふりかけ等)・調味料(麵つゆ・砂糖・塩・醤油・味噌・酢・食用油等)・菓子など

○注意いただきたい事項
 ・賞味期限が明記されており、一か月以上あるもの(社協によっては一〜三か月)
 ・未開封で中身が出ていないもの
 ・常温保存が可能なもの

勤式研修会

十二月二十二日(木)、山陰教区
教化センター研修室にて、勤式研修
会を開催しました。

大塚賢司師(本願寺法式本部式
務部会役者・知堂)を講師にお招き
し、親鸞聖人御誕生八五〇年・立教
開宗八〇〇年慶讃法要で依用される
「新制 御本典作法」について講義を
いただきました。

作法の出扱・お勤めする際の注意
点などについて説明いただき、式務

職のお立場ならではの教示をいた
だきました。

二〇二三(令和五)年三月から修
行される本山の法要に向け、機運を
高めることのできた研修会でした。



本願寺山陰教堂 御 正 忌 法 要

一月二十日(金)、本願寺山陰教
堂の御正忌法要をお勤めいたしまし
た。

ご講師は、本願寺派布教使 北山祐
章師(備後教区 沼隈南組 光源寺住
職)。

出雲南組・邑智東組の御法中、奏
楽員として雅龍会の皆さまにご出仕
いただきました。午前の法要は「宗祖
祖讃仰作法」、午後の法要は「宗祖
讃仰作法(音楽法要)」をお勤めし
ました。

新型コロナウイルス感染症拡大が

心配される中、感染予防に細心の注
意を払いながらお勤めいたしました。
アルコール消毒液を設置し、演
台には透明アクリル板を設置しまし
た。また、お斎は中止としました。

本堂の様子を教化センター研修室
でテレビに投影し、密を避けつつ参
拝者の確保に努めました。

参拝者の皆さまとご一緒に聴聞さ
せていただきました。

寒い中ではありましたが、よろこ
そお参りくださいました。



近 御本山用達
株式会社 **川勝法衣店**

0120-075-055
〒600-8344 京都市下京区花屋町通油小路東入
TEL.075-371-0367(代)
FAX.075-371-5088

印刷と出版でできること。
編集・デザイン・印刷・出版のプロとして
様々なソリューションを提供する。
人と向き合い、地域と向き合い一緒になってつくること。
それが私たちにできる、地域貢献のカチガとと考えています。

お客様の良き相談相手になることを目指します
株式会社谷口印刷
HARVEST ハーベスト出版



連研のための研究会に参加して

大田東組 専勝寺

かなもり 金盛

まいこ 麻衣子

一月三十日(月)、山陰教堂教化センター研修室にて、備後教区から連研中央講師の苜屋光影師をお迎えし、連研のための研究会が行われました。

例年は一日かけて、問題提起や分科会が行われていましたが、今年度も新型コロナウイルス感染症防止対策として、規模を縮小し、半日のスケジュールで講義、全体会を行いました。テーマとして、連研ノートE【改訂版】問い九「環境・格差・貧困などの社会問題は、宗教が入り込む問題ではないと思いますか。」についてお話をいただきました。

また、今回は事前に先生に質問を

送り、研修会の中で答えていただきました。「話し合い法座のすすめ方

で、テーマに沿った話し合いが難しいが、どのようにしたらよいのか」という質問に対して、「型にはめようとすると話し合いにならないけれど、連続した研修の中で話し合えることによる気付きができるのではないか。」また、「うまくいかない時にこそ、方向性が話し合えて、同じ方向を見ていけるのではないか。」「自分の中になかった価値観(考え方)に気付き、その気付きをどう転じていくか。」その多様性や対話についてお話を聞きました。

全体会でこの【問い九】に対して、

組重点プロジェクト リーダー・サブリーダー研修会

二月十七日(金)、山陰教堂教化センター研修室にて、各組重点プロジェクトリーダー並びにサブリーダーを対象とした研修会を開催しました。

宗門全体の重点プロジェクト実践目標である「貧困の克服に向けて

「Dana for World Peace」子どもたちを育むためにーを教区・組において具体的に展開するため、また、教区・組における重点プロジェクトの取り組みについて情報共有を図るための研修会です。

前段の社会問題と後段の宗教の関わり、二つに分けられるとの意見もあり、テーマによってしっかり研修や学習会をして取り組まなければならぬと確認しました。

私も中央研修にかかわる中で、年齢制限が撤廃されて、「私は高齢になっていきますが、何ができるかわからないけど命が尽きるまで門徒推進員を全うしたい」と話してくださいました方がおられました。門徒推進員は「資格」ではなく「自覚」と聞いておりましたが、先生はさらに「生き方」であると示してくださいました。今年度から連研を開催する組が増えてきました。どのような状況でも、ご門徒の皆さまと苦悩を共有しながら、一緒に歩んでいける場を大切にしたいと改めて思いました。

宗務所と教堂をオンラインで結び、宗派重点プロジェクト推進室の佐藤浩紹部長から、「組重点プロジェクトリーダー・サブリーダーの役割について」と題し、講義をいただきました。

重点プロジェクトリーダー設置の経緯や必要性について説明いただき、併せて、子どもたちを育むための支援活動について、宗派や各教区での事例を紹介くださいました。

協議会では、フードバンク活動の報告、過疎対策についての提言の後、各組から実践運動の取り組み事例について報告。

この研修会は、昨年度コロナ禍の影響で開催しなかったため、今年度が初めての開催です。各組の重点プロジェクトリーダー・サブリーダー、二十五名の参加でした。



実践運動総会

特記事項は以下の通り。

一、日 時 二〇二三(令和五年) 一月三十一日(火)

午後一時三〇分～午後四時

二、会 場 山陰教堂

教化センター研修室

三、出席者 委員二十五名

※欠席者十三名

四、協議事項

(一) 事務局報告

事務局から報告。

・教区委員会委員の就退任、子ども・若者ご縁づくり担当の副担当長就任について

・新しい「領解文」(浄土真宗のみ教え)について

・中央委員会開催について

・「山陰教区・本願寺山陰教堂

親鸞聖人御誕生八五〇年・立教

開宗八〇〇年度讃法要」修行に

ついて

(二) 二〇二二(令和四)年度事業報告(現況)

業報告

事務局及び各部会の部長から報告。

告。

(三) 二〇二三(令和五)年度事業計画(案)

業計画

事務局及び各部会の部長から説明。

原案通り承認。

【同朋・社会部会】

・同朋社会研修会の開催概要について説明。七月五日(水)、あす

てらすにて開催予定。

【寺院活動支援部会】

・子ども・若者ご縁づくり担当において、新たな取り組みとして、寺院子弟のネットワークづくりを計画している。

・過疎対応支援員から寺院の実態調査について報告。

【伝道・広報部会】

・僧侶研修会の開催概要について説明。

【同道・広報部会】

・オンライン担当を新たに設置し、サテライト拠点設置に向けた取り組み・ITを活用した過疎対策への取り組みを計画している。

(四) 内規変更について

事務局から教区委員会設置規則内規の変更について資料に基づき説明。オンライン担当を新たに設置することについて原案通り承認。

(五) 部会

※三部会に分かれ協議

(六) 全体会

各部会部長から部会の協議内容を報告。特記事項は以下の通り。

【同朋・社会部会】

・同朋社会研修会は、新型コロナウイルス

ウイルス感染症の状況を鑑みながら進める。会場は席の間隔を空け、百名程度の参加を見込んで

いる。

冊子「み教えと差別の現実」を研修課題とした人権啓発推進僧侶研修会の実施については、改めて組長会において奨励する。

平和の鐘の取り組みについて、九月十八日だけでなく、八月六日・九日・十五日など、実施範囲を広げて取り組んではどうか、また、同朋社会研修会においてオンライン併用で開催を検討してはどうかという意見があった。

【寺院活動支援部会】

・連研のための研究会・連研履修者研修会の計画については、研修講師協議会の中で事前に協議する形としたい。

・ご縁まち交流の実施については、さまざま意見が出され結論が出なかった。教区にとって大事な事業であり、開催方法など、じっくり案を練って前に進めていきたい。

・子ども・若者ご縁づくりの事業の中で、「子弟」という言葉が使われているが、教育の現場で現在使われていない表現であり、違和感があるという意見があった。

【伝道・広報部会】

・僧侶研修会は九月十一日(月)、一日開催とする。本年度同様、山陰教堂とサテライト会場二会場を設ける。個々にZoomで参加する方法も検討してはどうかという意見があった。

・来年度からオンライン担当が設置されることになった。オンライン会議の方法や不明なことがあれば、まずは事務局に尋ねて欲しい。また、オンラインでも現地集合でも、どちらでも開催可能ということであれば、現地で集まるのが原則だと考える。

一方、広い教区なので、オンラインの方が効率的という考えもある。教区委員会として、今後どちらに比重をおいていくのか検討が必要という意見があった。

2023(令和5)年度 実践運動 山陰教区 行事予定

部門	行事(事業)名	期日	会場	講師	参加者
教区委員会	実践運動推進委員会(総会)	2月頃	本願寺山陰教堂		
	実践運動ブロック連絡会議		(5ブロックごとに自主的に開催)		
	実践運動人権啓発推進僧侶研修会		(各組または合同開催)		
	実践運動推進協議会		(各組または合同開催)		
組重点プロジェクトリーダー・サブリーダー研修会					
同朋社会部会	同朋社会研修会	7月5日(水)	あすてらす	菅原龍憲 師	
寺院活動支援部会	連研のための研究会				
	連研履修者研修会				
	キッズサンガ通信発行		—		
	寺院子弟のネットワークづくり				
	子ども・若者ご縁づくり教化資料発行		(しおり頒布)		
ご縁まち交流					
伝道広報部会	カレンダー・伝道資料・冊子発行		10月発行		
	教区報「山陰」発刊		155号・156号・157号		
	ホームページ「山陰教区」		(https://saninkyoku.net)		
	僧侶研修会	9月11日(月)	本願寺山陰教堂他	森田眞円 師	
	勤式講習会(僧侶研修会と併修)	〃	〃	小原静伍 師	
	法務員・特別法務員連絡協議会・勤式研修会	2月22日(木)	本願寺山陰教堂	福本康之 師	
	勤式練習所	6月15日(木)	本願寺山陰教堂	勤式担当者	
		7月19日(水)	佐波組浄土寺	勤式担当者	
		9月19日(火)	本願寺山陰教堂	勤式担当者	
		10月12日(木)	本願寺山陰教堂	勤式担当者	
12月14日(木)	本願寺山陰教堂	勤式担当者			
オンラインに関する取り組み					
社推協	各施設カレンダー配布		—		
ビハアラ	ビハアラ山陰総会	6月27日(火)	本願寺山陰教堂		
	ビハアラ活動第4連区研修会				
	ビハアラ全国集会	1月27日(土)・28日(日)	本願寺		
	ビハアラ公開講座				
	ビハアラ山陰機関誌発行				
門徒推進員	総会				
	実践運動研修会				
	第4連区門徒推進員実践運動研修会	9月中旬予定			
会報「ともしび」発行					
布教団	総会・研修会	5月22日(月)	本願寺山陰教堂		
	地区別布教大会		鳥取ブロック		
	教学研究会	6月23日(金)	本願寺山陰教堂		
	教区青年布教使大会				
	教区青年布教使研修会				
	第4連区布教使研修会	6月29日(木)・30日(金)	四州教区		
	第4連区青年布教使研修会	9月28日(木)・29日(金)	備後教区		
寺院振興「ともしび法座」		(組長からの申請に基づき実施)			
総代会	総代研修会				
	第4連区門徒総代研修会	—	—	—	—
	会報「門徒総代会だより」発行				
壮年会	仏教壮年会員研修会	—	—	—	—
	総会・研修会				
	ブロック研修会(鳥取地区)				
	ブロック研修会(出雲地区)				
	ブロック研修会(石見地区)				
	連区連絡協議会		四州教区		
全国仏教壮年会大会	4月15日(土)・16日(日)	本願寺			
会報「壮創」発行	3月頃				
婦人会	総会・研修会	6月14日(木)	松江テルサ	花岡静人 師	
	実践運動研修会				
	教区若婦人のつどい				
	連区連絡協議会				
	中四国地区仏教婦人会大会	—	—	—	—
	仏教婦人幹部研修会				
	若婦人中央研修会				
	総連盟総会	4月21日(金) オンライン	本願寺山陰教堂		
	世界仏教婦人会大会	5月11日(木)・12日(金)	本願寺・京都国際会館		
	寺族婦人研修会				
寺婦	寺族若婦人研修会	7月8日(土)		鍋島直樹 師	
	会報「寺婦のひろば」発行				
青少年	総会・研修会				
	指導者研修会				
	少年連盟中央研修会				
	中・四国ブロック指導者研修会	10月30日(月)・31日(火)	備後教区		
	少年教化推進者研修会・寺族女性研修会				
	広報紙「はばたき」発行	3月頃			
	まことの保育大学講座(連区)				
	全国保育大会	7月29日(土)・30日(日)	本願寺		
	総会・理事会				
	中四国ブロック真宗青年の集い		四州教区		
仏青	全国仏教青年のつどい	4月15日(土)	本願寺		
	青少年教化指導者研修会				
	全国寺族青年軟式野球大会				
野球	中・四国地区寺族青年野球大会		山陰教区		
矯正教化	矯正教化連盟山陰教区支部総会	6月頃	本願寺山陰教堂		
	矯正教化連盟広島支部(教誨師)研修会		備後教区		
保護司	更生保護事業支部総会				

2023 (令和5) 年度 山陰教区一般会計 歳計予算

【歳入】

款 項	2023年度予算額	2022年度予算額	対比△減
1 教区賦課金	34,755,000	35,100,000	△ 345,000
1 本年度賦課金	34,755,000	35,100,000	△ 345,000
2 過年度賦課金	0	0	0
2 宗派助成金	10,360,000	10,630,000	△ 270,000
1 宗派助成金	10,360,000	10,630,000	△ 270,000
3 願記手数料	1,800,000	1,800,000	0
1 願記手数料	1,800,000	1,800,000	0
4 回 金	110,000	110,000	0
1 回 金	110,000	110,000	0
5 雑 収 入	1,185,000	1,160,000	25,000
1 雑 収 入	1,185,000	1,160,000	25,000
6 前年度繰越金	11,000,000	12,500,000	△ 1,500,000
1 前年度繰越金	11,000,000	12,500,000	△ 1,500,000
歳入合計	59,210,000	61,300,000	△ 2,090,000

【歳出】

款 項 目	2023年度予算額	2022年度予算額	対比△減
5 諸手当	1,900,000	2,100,000	△ 200,000
6 教区勤式指導員事務費	50,000	50,000	0
2 事務費	3,750,000	3,900,000	△ 150,000
1 通信印刷費	1,600,000	1,700,000	△ 100,000
2 事務消耗品費	650,000	600,000	50,000
3 事務諸費	1,300,000	1,400,000	△ 100,000
4 備品費	200,000	200,000	0
3 旅費	1,000,000	1,200,000	△ 200,000
1 交通費	1,000,000	1,200,000	△ 200,000
4 諸費	580,000	600,000	△ 20,000
1 慶弔供奠費	150,000	150,000	0
2 接待費	30,000	50,000	△ 20,000
3 渉外費	200,000	200,000	0
4 雑費	200,000	200,000	0
4 回金	15,010,000	15,850,000	△ 840,000
1 回金	15,010,000	15,850,000	△ 840,000
1 山陰教堂運営費	12,460,000	12,000,000	460,000
2 災害対策費	1,000,000	1,000,000	0
3 退職積立金	1,000,000	1,000,000	0
4 子ども・若者推進事業費	50,000	50,000	0
5 「各種法要」積立金	0	0	0
6 平衡資金	500,000	0	500,000
7 慶讃法要費	0	1,800,000	△ 1,800,000
5 宗会議員選挙費	100,000	100,000	0
1 宗会議員選挙費	100,000	100,000	0
1 宗会議員選挙費	100,000	100,000	0
6 予備費	4,909,400	5,288,000	△ 378,600
1 予備費	4,909,400	5,288,000	△ 378,600
歳出合計	59,210,000	61,300,000	△ 2,090,000

【歳出】

款 項 目	2023年度予算額	2022年度予算額	対比△減
1 教区事業費	13,240,600	13,752,000	△ 511,400
1 総合教化企画費	2,450,000	2,350,000	100,000
1 御同朋の社会をめざす運動推進費	2,450,000	2,350,000	100,000
2 教化費	5,600,000	5,720,000	△ 120,000
1 寺院機能振興費	950,000	950,000	0
2 婦人青少年費	1,150,000	1,250,000	△ 100,000
3 総代・壮年費	300,000	450,000	△ 150,000
4 研修費	1,900,000	1,770,000	130,000
5 矯正福祉費	350,000	350,000	0
6 文書伝道費	900,000	900,000	0
7 教化活動費	50,000	50,000	0
3 助成費	4,990,600	5,432,000	△ 441,400
1 布教団助成金	330,000	530,000	△ 200,000
2 各種団体助成金	490,000	690,000	△ 200,000
3 地方教化助成費	4,170,600	4,212,000	△ 41,400
4 災害対策費	200,000	250,000	△ 50,000
1 災害活動費	200,000	250,000	△ 50,000
2 会議費	1,510,000	1,500,000	10,000
1 会議費	1,510,000	1,500,000	10,000
1 教区会議費	960,000	950,000	10,000
2 組長会費	400,000	400,000	0
3 各種会議費	100,000	100,000	0
4 職員会議費	50,000	50,000	0
3 教務所費	24,440,000	24,810,000	△ 370,000
1 人件費	19,110,000	19,110,000	0
1 教務所職員俸給	11,600,000	11,500,000	100,000
2 賞与	2,750,000	2,700,000	50,000
3 退職交付金	10,000	10,000	0
4 福祉費	2,800,000	2,750,000	50,000

2023(令和5)年度 本願寺山陰教堂 常例法座「燈映会」

場所：本願寺山陰教堂（松江市大正町 443-1）※JR 松江駅南口から徒歩3分

	日時	講師名	組	寺号	
2023年 (令和5年)	4月21日(金) 午後1時30分～	朋澤 融智	鹿足組	誓立寺	
	5月19日(金) 午後1時30分～	西池 浩宣	鳥取因幡組	光賢寺	
	6月21日(水) 午後1時30分～	三明 慶輝	大田西組	瑞泉寺	
	7月21日(金) 午後1時30分～	吉川 恭	千須賀組	永照寺	
	8月21日(月) 午後1時30分～	河野 慈演	三隅組	西方寺	
	9月21日(木) 午後1時30分～	北島 清秀	神門組	乗光寺	
	10月20日(金)	報恩講法要(二座) (午前法要)午前10時30分～ (午後法要)午後1時30分～	竹内 俊之 師	兵庫教区 揖龍東組 浄蓮寺 (教区外)	
	12月21日(木) 午後1時30分～	徳川 眞英	大田東組	浄土寺	
2024年 (令和6年)	1月19日(金)	御正忌法要(二座) (午前法要)午前10時30分～ (午後法要)午後1時30分～	安部 恵証 師	備後教区 三次組 善照寺 (教区外)	
	2月21日(水) 午後1時30分～	小笠原宣隆	邑智東組	西福寺	
	3月21日(木) 午後1時30分～	緇川 浄	浜田組	光西寺	

毎月21日開座(11月を除く) ※21日が土日祝日の場合は平日に前倒し

2023(令和5)年度 山陰教区 鳥取常例線

各月15日～17日	講師名	組	寺号	
2023年 (令和5年)	4月	休線		
	7月	休線		
	9月	吉川 光城	飯南組	真向寺
	10月	林 彰	大田東組	松林寺
2024年(令和6年)	3月	毛利 孔晶	千須賀組	眞浄寺

2022(令和4)年度 ともしび法座開座報告

	開催組	開催寺院	法座名	開座日	出講講師
1	大田東組	禮善寺	永代経	令和4年 4月23日(土)	吉川 光城
2	大田中組	法乗寺	永代経	令和4年 6月25日(土)	小笠原宣隆
3	佐波組	大光寺	報恩講	令和4年 11月12日(土)	齋藤 友法
4	江津組	浄念寺	報恩講	令和4年 11月23日(水)	佐々木かおり
5	大田東組	禮善寺	報恩講	令和4年 12月4日(日)	中村 英晴
6	鹿足組	了徳寺	御正忌	令和5年 1月8日(日)	朋澤 融智

山陰教区寺院振興「ともしび法座」のご案内

山陰教区では、住職不在等の理由で法座開催が困難になっているご寺院を対象に寺院機能の振興を目的として、教区布教団員の奉仕布教による「ともしび法座」を開座しています。この法座は、平成14年度(平成16年度から「ともしび法座」に名称変更)から実施され、今年で22年目を迎えます。これまでに報恩講・永代経法要など延べ196座に出講させていただきました。人口減少・高齢化等の影響で寺院を取り巻く状況は益々厳しくなっています。さまざまな理由から法座が開催できないなどお困りの場合は、教務所までご相談ください。詳細についてご案内いたします。

※開座には寺院の所属する組長からご申請いただきます。

2023 (令和5) 年度 山陰教区「勤式練習所」日程・内容

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、細心の注意を払って開講いたします。

開催日	時間	内容	会場	講師	準備物
6月15日(木)	13:30～ 16:00	正信念佛偈作法・伽陀椅子席作法	本願寺 山陰教堂	山陰教区勤式担当	勤式集または声明集・法式規範・ 中啓・双輪念珠・平服・布袍・ 輪袈裟・単念珠
7月19日(水)	13:30～ 16:00	無量寿経作法 入堂・退出の作法	佐波組 浄土寺	山陰教区勤式担当	勤式集または声明集・法式規範・ 中啓・双輪念珠・平服・布袍・ 輪袈裟・単念珠
9月19日(火)	13:30～ 16:00	新制 御本典作法 ※親鸞聖人御誕生 850 年・立教開 宗 800 年慶讃法要作法	本願寺 山陰教堂	山陰教区勤式担当	「新制 御本典作法」経本・平服・ 布袍・輪袈裟・単念珠
10月12日(木)	13:30～ 16:00	葬儀 七条袈裟の着け方	本願寺 山陰教堂	山陰教区勤式担当	「葬儀勤行集」「葬儀規範勤行集」 「葬儀規範勤式集」「葬儀規範」 のいずれか・七条袈裟・僧綱板・ 色衣・切袴・中啓・双輪念珠
12月14日(木)	13:30～ 16:00	正信偈・焼香作法・内仏の荘厳 (ご門徒も対象)	本願寺 山陰教堂	山陰教区勤式担当	「浄土真宗聖典一勤行集」「勤 式集」「小本和讃」または普段お 使いの聖典 <僧侶> 平服・布袍・輪袈裟・単念珠 <門徒> 単念珠・式章
2月22日(木)	13:30～ 17:00	<勤式研修会> 仏教儀式の意義	本願寺 山陰教堂	福本康之 師 (元 浄土真宗本願寺派 総合研究所 仏教音楽・ 儀礼研究室室長)	平服・布袍・輪袈裟・単念珠

「新制 御本典作法」指導依頼について

各組における「親鸞聖人御誕生 850 年・立教開宗 800 年慶讃法要」修行にあたり、「新制 御本典作法」の事前指導を教区勤式担当へ依頼される場合は、山陰教区教務所までご連絡ください。(TEL 0852-21-4747)

ご本山への団体参拝は弊社へご用命をよろしくお願ひ致します。

JTB 感動のそばに、いつも。

株式会社 **JTB** 山陰支店

〒690-0003
松江市朝日町477-17 松江SUNビル7階
TEL 0852-23-6720
FAX 0852-23-7739
営業時間：9:30～17:30 (土・日・祝日休業)





二月十五日(水)〜十六日(木)、山陰教区布教団・地区別布教大会が浜田市を主会場に開催されました。初日、九会所の寺院で団員による布教実演が執り行われ、私は江津市

訪導

地区別布教大会に参加して

大田西組 瑞泉寺 三^み明^{あけ}慶^{よし}輝^{てる}

の千田・浄光寺(能美頭之住職)に出講しました。小雪の舞い散る寒い日でしたが、数多くのお同行が参訪されました。熱心にお聴聞される姿に心温まる法座となり、妙好人・善太郎同行を輩出したお寺だと敬服しました。

昨今、コロナ禍の影響でネット機器を活用した法座形態が普及し、布教現場でも戸惑いが生じてはいないでしょうか。社会に即応した感性は持続したいと思いますが、蓮如上人が説かれた「平座」の精神を見失うことでは稚拙な伝道に陥るかと危惧します。

二日目、研修会には桑羽隆慈先生(山口教区正岸寺前任職)から「いま、布教に求められること」について講義をいただきました。

先生は、「立教開宗八〇〇年」の意義を力説され、現代社会における不条理な苦しみ、医学では越えることができない苦悩、即ち「老・病・死」の「苦」に対処してともに寄り添う

教化・伝道活動が待望されていると、示唆に富む助言をされました。親鸞聖人が『ご本典』を草稿されて八〇〇年。聖人は化身土文類の後序に「『安楽集』にははく、(中略)前に生まれんものは後を導き、後に生まれんひとは前を訪へ(註釈版聖典四七四頁)」と「訪導」の意味合いをお説きくださいました。何事においても、先輩は後輩を導き指導する。そして後輩は先輩のもとに歩み寄ることを怠ってはいけないとご指摘されています。

この度の地区別布教大会に参加して「訪導」の精神を具現化して日々の法務、布教現場に活かし、親鸞聖人のご遺徳を讃嘆したいと肝に銘じています。研修の場を与えてくださった有縁の諸先輩の皆さまにお礼申し上げます。

合掌



伝統ある京佛具を後世に伝えたい

浄土真宗本願寺派仏具専門店
寺院用 在家用 仏壇 仏具 記念品

株式会社 **古田た佛具製作所**

〒600-8328 京都市下京区正面通西洞院東入ル蛭子水町609
TEL(075)343-2341 FAX(075)343-0836
フリーダイヤル 0120-178-413
フリーファックス 0120-343-036

携行本尊専用レーザーケース (化粧箱入)

¥ 11,000 (税込)

品質: 本革・印傳 (藤柄)

カラー: (1) 薄青/紺青 (2) 鼠/黒 (3) 藤/焦茶

サイズ: 折り畳み時 7.1×11.3×1.6 cm
使用時 7.1×12.0×11.0 cm (奥行) (高さ)

*携行本尊(絵像)は御山本山願寺免物です



井筒法衣店

〒600-8468 京都市下京区堀川通新花屋町青(西本願寺前)
Tel 075-351-1234 Fax 075-341-7905
☎ 0120-075-720

オンラインショップを開設しました





平成二十四年度から始まった実践運動。第四期の重点プロジェクト推進期間も令和五年度が最終年度になります。

神門組では「現代社会が抱える貧困問題等について、その実態を『知る』ことから『学び』を深め、その克服のための具体的活動を通し、念仏者として自他共に心豊かに生きることのできる社会の実現のために寄与する」という目標を掲げ、各寺院・僧侶・教化団体を中心に取り組んでいます。ここ数年はコロナ禍の中で、組行事や寺院での活動等も制限せざるを得ない時もありましたが、組としての実践運動第四期の取り組みを報告します。

① 学びを深めるための僧侶研修会 (年二〜三回)

貧困・人権についての研修を行いました。

・出雲市の「子どもを取り巻く貧困の実態」を、外国にルーツを持つ子どもたちとの関わりから学び、私たちが「多文化共生・共生社会」の中でどのような支

援ができるのかという研修。

・新型コロナウイルス感染症による経済的影響を受けた方への支援を中心に、偏見、差別の問題や、失業・休業が広がる中で、日々食事も困窮される家庭、失業中の家庭や収入の途絶えた学生、ひとり親の家庭状況などの実態を学び、支援の在り方についての研修。

② フードバンク活動

神門組では令和三年度から、新たな取り組みとして、「フードバンクへの協力」を策定し、フードドライブに合わせ年二回、組内寺院に協力をお願いしています。毎回多くの食品や生活用品が寄せられ、出雲市社会福祉協議会にお届けしています。

③ 子どもたちの笑顔のために募金

令和元年度から、組として取りまとめるようにしました。コロナ禍で各寺院の法座や教化団体の活動が延期や中止される中でも、毎年多くのご寄附をいただいています。浄財は組として本山、出雲市社会福祉協議会等に送金しています。

④ 広報活動の充実

・『広報かんど』の発行：神門組では年二回『広報かんど』を発行しています。早いもので今回で八十三号になりました。

・ホームページの開設：平成二十九年年度から組のホームページを開設しましたが、今後取り組みを強化する予定です。

⑤ 各教化団体の活動推進

神門組では、総代会、仏壮・仏婦、少年の各連盟、門徒推進員連絡協議会、寺族婦人会、「コール蓮」等の教化団体がそれぞれに熱心な活動を行っています。

以上、紙面の都合上、主な活動しか紹介できませんでしたが、組内各寺院においても、さまざまな取り組みを通し実践運動に協力していただいています。これからも情報交換を密にし、新型コロナウイルスの収束を見据えた新たな取り組みを進めていきたいと思えます。



神門組ホームページ



つぶやき職員

教務所職員の職階制度が「賛事・主事・録事・書記」から「事務職員」という名称に見直され一年が経ちました。どこの組織でもいえることだ

と思いますが、限られた人員の中で、業務を遂行していくには、立場が上だから雑務的な仕事には関知しないという職務意識を変えていく必要があるということ、また逆の立場の場合でも同じようなことがいえるでしょう。職員には、状況に応じて柔軟に対応していく能力が求められていると受け止めています。それと同時に、事務作業の効率化も進めていかなければなりません。

ところで、職階が無くなり、これからは「賛事」ではなく何と呼んだらよいの？と聞かれることがあります。「〇〇事務職員」でしょうか？どうもしっくりこないような気がします。職階制度は見直されましたが、これまで、教務所の「賛事」という重責を務めてこられた歴代諸先輩方の精神はこれからも引き継いでいかねばと感じる今日この頃です。

(K・T)

第二十八回 浄土真宗青年僧侶
連絡協議会(＝浄青僧)全国大会
を二月二十一日(火)、二十二日(水)、

「和をもつて貴しとなす」神々の国
にも念仏の息吹」をテーマに、出
雲市の出雲ロイヤルホテルを会場
に開催いたしました。浄青僧加盟
団体の青年僧侶を中心に山陰教区
内や有縁の僧侶、二日間のべ
二百四十七人(オンライン参加者
を含む)にご参加いただきました。

ご講師には筑波大学名誉教授・東
国真宗研究所所長の今井雅晴先生、
島根地理学会会長・妙好人伝研究
者の神英雄 先生の両氏をお迎えし
ました。

今井先生から「親鸞聖人と神々の
信仰」を講題に、「稲田の草庵は稲
田神社の境内にあった。親鸞聖人
が土地の習俗や伝統を否定するの
ではなく、肯定から布教をすすめ
ていかれたことは現代においても
通用する大切な視点」と語られま
した。神先生は「出雲の妙好人に
学ぶ」と題して講演。「妙好人は全
国各地に存在しており、松江藩家
老の神谷備後、安来の医師の原敬
常、古志の勝蔵など…、出雲地方
にも数多く妙好人が存在している」
と、多くの方にとって新鮮なお話で
した。

また、大会の日程が聖徳太子の旧

曆御命日と重なったこともあり、朝
の勤行では奉讃早引作法の太子章
をお勤めいたしました。

ご法話では講談師としてもご活
躍の邑智東組高善寺の武田正知師
による新作の創作講談「妙好人
石橋壽閑」の一席をお取次ぎ頂き
ました。

神門組乗光寺の北島清秀 師を

憂 楽 帳

第二十八回 浄土真宗青年僧侶連絡協議会
全国大会について(ご報告)
大会実行委員長
出雲組 龍善寺 柳樂由乘

コーディネーターに、島根県神社
庁参与の錦田剛志 宮司にも加わっ
ていただき、パネルディスカッショ
ンを実施し、宗教間対話の大切さ
を探りました。今井先生、神先生は、
明治以前の寺院と神社の密接な関
係を語り、錦田宮司は「現代にお
いては分断と格差の社会に、調和
の流れが生まれつつあり、このシン



ポジウムもそれだと思ふ。宗教の
違いを認め合いながら相互に理解
し協力していく『和』が大切。出
雲からそれを示していこう」と語
られました。

最後になりましたが、この大会の
ためにご協賛くださいましたご寺
院・企業様、それ以外にもお寄せ
いただきましたさまざまなお支援・
ご協力に対し、衷心よりお礼申し
あげます。今後とも楽法会を何卒
宜しくお願い申し上げます。

編集後記

ある人の書いた文章を別の人が
わかりやすく手直しをするという
作業は、本質的にはやってはいけな
い作業だといえます。言葉というも
のは本当に不思議なもので、発せら
れたそのときの状況や感情、意図
などが複雑に絡み合っ出てくる
ものなので、そう簡単に、他人が修
正したりしてはいけないものだと思
うのです。そう考えると、なにもの
かをわかりやすくするなどという
仕事は、本質的には、僭越で横柄
な作業であると深く認識すべきで
しょう。

ただ、そうはいつても、新しい課
題のために翻訳が必要だということ
はあり得ると思います。わかりや
すくするためには、根源的な意味
をしっかりと問い直す必要もあるの
かもしれません。また、新しい課題
に照らして考えてみると、実は、全
く新しい形式を追求しなければか
つての本質には迫れないということ
もあり得ると思います。わたしたち
はもう一度、話し合うことの大切さ
を認識しなければならぬのかもし
れません。

(O・M)